

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 香川県 |
|-------|-----|

I 学校の概要（平成15年4月現在）

|     |           |    |    |    |    |    |      |     |     |
|-----|-----------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 三野町立吉津小学校 |    |    |    |    |    |      |     |     |
| 学年  | 1年        | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 1         | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1    | 7   | 12  |
| 児童数 | 22        | 23 | 23 | 20 | 25 | 28 | 2    | 143 |     |

II 研究の概要

1 研究主題

**確かな学力を身につけさせる学習指導の改善**

—— 国語・算数の少人数指導を中心に ——

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科等

- 1年生～6年生まで全学年で実施 特に3年生以上は、ほぼ全時間で実施  
国語科及び算数科
- 教科を選択した理由

学習状況調査・CRT等の標準化されたテストの結果、本校児童の国語・算数の学力は観点別にみると多くの領域で県平均より劣っていた。そこで、基礎・基本の定着を図るための指導・評価のあり方を研究することにした。本研究を通じて指導と評価の一体化をめざした学習指導について研究を深めることにより、教師の指導力を向上させ、国語科・算数科の確かな学力づくりができると考え、上記の2教科を選択した。

(2) 年次ごとの計画

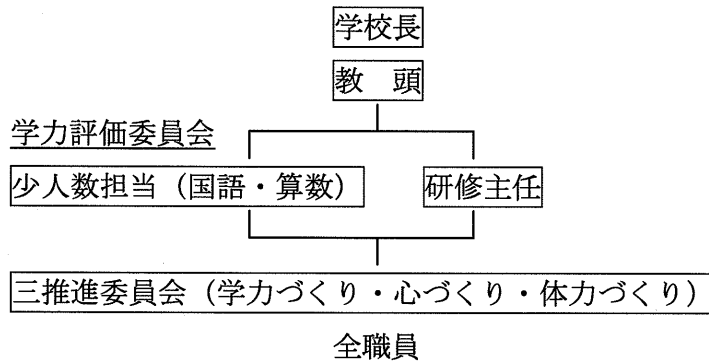
|                    |  |
|--------------------|--|
| 平成<br>15<br>年<br>度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマ 『確かな学力をつけさせる国語・算数の少人数指導のあり方』</li> <li>○ 研究の見通し 「よく分かる授業」を成立させるための効果的な少人数授業の指導方法を開発し、個に応じた指導を充実させることにより、基礎学力や学び方を身につけさせる。</li> <li>○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 追究過程における評価の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点児の変容の観察・記録</li> <li>・ワークシート・ヒントカードの作成</li> <li>・自己評価カードの工夫</li> </ul> </li> <li>② 少人数授業の留意点・効果的な指導法の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本をふまえた授業研究</li> <li>・教師の授業の分析と評価</li> <li>・外部講師による指導</li> </ul> </li> <li>③ 補充的な指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルタイムの運用</li> <li>・授業中のドリルの実施</li> <li>・学校での学習と家庭学習との連携</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> |
|--------------------|--|

平成16年度

- テーマ 『確かな学力をつけさせる国語・算数の少人数指導のあり方』
- 研究の見通し 個に応じた指導の充実
- 研究の内容・方法
  - ① 少人数授業の留意点・効果的な指導法の開発
    - ・基礎・基本をふまえた授業研究・教材開発
    - ・教師の授業の分析と評価
    - ・課題克服支援プログラム・・・個々のプロフィールの把握
    - ・外部講師による指導
  - ② 教師の役割分担の工夫
    - ・視点児の変容の観察・記録
    - ・ワークシート・ヒントカードの工夫
    - ・自己評価の工夫
  - ③ 補充・発展的な指導
    - ・系統的なドリルの実施と家庭学習との連携
    - ・多様なドリルの開発と活用・・・進級ドリル
    - ・音読・読書活動の推進

(3) 研究推進体制

① フロンティアスクールとしての研究推進組織図



② 研究推進体制上の工夫

- ・保護者への少人数授業の公開 毎月1回の学校開放日と学期1回の授業参観  
 1学期・・・3回 2学期・・・3回 3学期・・・2回  
 児童・保護者へのアンケートを学期ごとに実施し、少人数授業についての外部評価をする。
- ・児童の主体的な学びを促す学年団ごとの少人数教室の経営
- ・週時程に位置づけたドリル等の実践と打ち合わせ時間

|   | 朝の活動 (15分間)      |             | 少人数指導の打ち合わせ |
|---|------------------|-------------|-------------|
| 月 | 読書 (自由読書, 読み聞かせ) | 補充学習 (国・算)  | 低学年         |
| 火 | 表現タイム (1人1回全員発表) | まとめテスト (月末) | 中学年         |
| 水 |                  |             |             |
| 木 | ドリルタイム (国語)      |             | 高学年         |
| 金 | ドリルタイム (算数)      |             |             |

### Ⅲ 平成15年度の研究成果および今後の課題

#### 1 研究の成果

##### (1) 追究過程における評価の工夫について

- ・ 授業の導入段階で、児童の実態を調査し、その結果に基づいて個に応じたワークシート・ヒントカードを作成し、個の指導に役立てた。その中から特に視点を決め、授業の課題に対する反応を予測して、授業に臨むようにした。その結果、視点児の学習態度に変化が見られ、集中力や意欲が向上し、進んで学習に取り組むようになってきた。しかし、ともすれば、視点児に学力が低位の児童を選びがちなので、発展的な学習への支援もできるよう、視点児の選び方に配慮しながら実践している。

〈授業の導入段階での児童の作文の実態〉

〈視点児に対する支援等〉

| 年生       |          | はじめに書いた作文 |    |     |   | 和文<br>例         | 和文<br>例の内容 | 和文<br>例 |
|----------|----------|-----------|----|-----|---|-----------------|------------|---------|
| 段落<br>合計 | 修正<br>適切 | 段落数       | 本文 | 後書き |   |                 |            |         |
| 6        | △        | 3         | 1  | 2   | ○ | くつのはき<br>むつのはき  | △          |         |
| 8        | △        | 2         | 3  | 3   | ○ | ふんのはき<br>パントをはき | △          |         |
| 9        | △        | 1         | 3  | 5   | ○ | 例④<br>パントをはき    | △          |         |
| 5        | △        | 1         | 2  | 2   | ○ | パントをはき          | △          |         |
| 4        | △        | 1         | 2  | 1   | ○ | パントをはき<br>のちがひ  | ○          |         |
| 6        | ○        | 3         | 2  | 1   | ○ | パントをはき<br>はき    | △          |         |

#### 4年国語科「くらしの中の和と洋」の学習

| 視点児氏名   |  |
|---------|--|
| 視点児について | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「パンとごはん」を題材に選が、前後のつながりがおぼつかないという点</li> <li>○「何から、どのように書けばいいか」迷って進めないことが多い。</li> <li>○段落の意識があるが、1文ずつを段落と誤って訂正している。</li> </ul> |

記録者（

視点児に対する支援等

| 学習活動             | 予想される児童の反応  | 教師の支援等  | 児 |
|------------------|---|---|---|
| 1. 本時の学習を確認する。   | ○ノットを見て、前時の記録を確認する。                                   | ○不安そうにしている時は、指で大切なことをさし示す。                    |   |
| 2. 話し方について注意を促す。 | ○友だちの発言を聞いて、手がかりになることばを見つけられる。                        | ○ことばに印をつけて書く指示をした。段落と段落の関係に気が付くことばについて一言を添える。 |   |
| 3. 使い方について注意を促す。 | ○手かきになることばを見つけて印はつけられる。しかし、その後、どのようにすればよいか分からず、滞りが多い。 | ○「後書き、ノットの記録を指で確認させる。<br>○ノットへの記録の印の書き方を指示する。 |   |

〈自己評価カードの工夫〉

授業の目標に合った評価の観点を決め、自己評価し、相互評価や教師からの評価を入れながら学びの跡が実感できるよう工夫した。

★ ことばの使い方

|                    |   |   |
|--------------------|---|---|
| ② だん落が変わっても同じことば   | ○ | △ |
| ① だん落の初めに書くもの ○○○は | ○ | △ |
| ④ 一つの長さで「だん落」      | × | ○ |
| ③ 同じ順番で ○○○ ↓ ○○○  | ○ | △ |
| ② 先に、ちがいをかいたんにせつ明  | ○ | △ |
| ① 最初のだん落にまとめたことば   | × | △ |

ふり返りカード 四年（ ）

★ 和と洋のせつ明文を書く時に  
★ だん落のならべ方

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | △ | ○ | △ | × | ○ | △ |
| ○ | △ | ○ | △ | × | ○ | △ |
| ○ | △ | ○ | △ | × | ○ | △ |

算数では、授業の終末部分で学習を振り返り、分かったことを自分のことばでまとめる。教師はそれを評価しながら指導の方法を反省したり次時の対応のしかたを考える資料としている。

#### 「折れ線グラフ」学習のまとめ

4年（ ）

② 折れ線グラフのよみ方 (1) 点と点の間をいかに  
くわたり方をみるのには、点の間をいかに  
折れ線グラフは、点のつらぎの  
てんが、かいていっている。  
折れ線グラフは、なめらかに  
なっている。↑  
折れ線グラフは、点だけだとかわ  
方がわからぬから、気象をいかに  
くわたり方、↑上がる ↓下がる →かわりなし  
学習したことばを使って、まのめをいかに  
よみかたを、よみかたを、よみかたを、よみかたを

② 折れ線グラフのよみ方 (2) 変化のよみかたをみる

(2) 少人数指導の留意点・効果的な指導法の開発について

① 授業分析と評価

子ども同士が学び合う授業にするためには、教師はその発問、助言、指名、机間指導等を計画するとともに、学習のルールを教えていかなければならない。そこで、校内の研究授業について教師の発言記録をもとに授業を分析し、それを評価し合うという実践をしてきた。その結果、子ども同士のつながりで授業が進むような発問・助言をしたり指名に配慮したり、動く板書を意識したり、そのための教材・教具の工夫をしたりして授業を組み立てる教師の姿勢が育ちつつある。

例---例を言った。変---意見が変わった。  
願---お願いした。？---質問。(確)---確認した

| 平成15年度 |              | 4年生                                   |                  | 吉津小学校 (5分)          |              |   |  |
|--------|--------------|---------------------------------------|------------------|---------------------|--------------|---|--|
| 日      | 進んで発表 (トータル) | かかわり方<br>ほくも、それとでも。(例) 変(変) 相(相) ？(？) | 挙手してはい (指) 子への指名 | 多(多) ③(③) ②(②) (自主) | 気づいた 後者の並べ方に |   |  |
| 1      | 国<br>1/29(木) |                                       |                  |                     | △            |   |  |
| 2      |              | 下                                     | は、(例)、(変)        |                     | 多            |   |  |
| 3      |              | —                                     | ？                |                     | ④4枚落見かけた     | ？ |  |
| 4      |              |                                       |                  | 下                   |              | △ |  |
| 5      |              | —                                     |                  |                     |              | △ |  |

② 外部講師による指導

3学期は外部から講師を迎え、国語科・算数科の授業の基礎・基本について授業実践を通して指導を受けた。

国語科では、「生きて働く言語の力」を育てるために「読む・書く・話す・聞く」の基礎・基本を大切に単元計画の中で、相手意識を持たせ、学ぶ喜びを感じられるような工夫が必要であることを学んだ。そのためには、活動ばかりにならないよう、書くために読む、友達のよさに学ぶ、自分らしさを出すなど多様な活動を取り入れた授業にしていかなければならないと感じている。

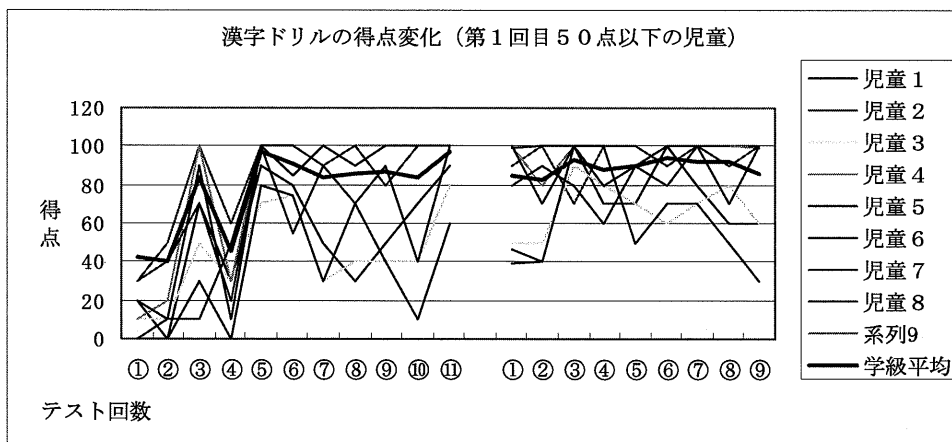
算数科については、「課題意識を生む、感動(驚き)のある授業にするために」思考力や想像力を伸ばすための発問・助言を考えること、結果より過程を大切にすること、学級全体のレベルアップのために発展的な学習を取り入れていくことなどを具体的な教材から学んだ。

(3) 補充的な指導（基礎的・基本的な内容の定着を図るために）

① ドリルタイムの運用

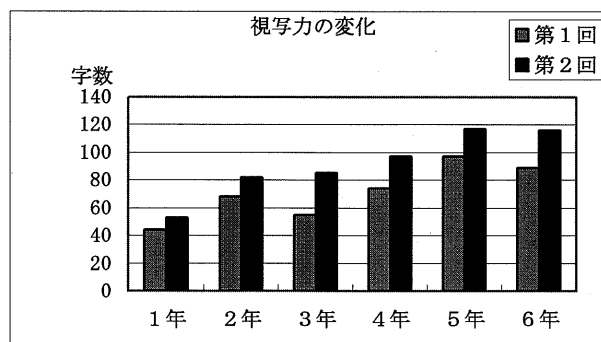
漢字・計算の反復練習と評価を継続していくことにより、全学年、漢字の読み書きの力（量、正確さ）や計算技能（正確さ、速さ）に向上が見られた。特に、学習状況調査（平成15年4月実施）の結果、他の学年に比べ習熟度の劣っていた6年生では、4月当初1回目の漢字ドリルの得点が50点未満の児童8名が12月には1名に減り、6年生全体の平均点も78.4点に上昇した。なお、学級担任の働きかけの仕方により、向上の度合いが大きく異なることが分かった。

データ資料（左①～⑪：1学期 右①～⑨：2学期）



② 授業中のドリルの実施

国語の授業においては、授業の中に音読3分、視写3分などのドリルを取り入れた。音読では、文章を読む力や教師の範読に合わせた速さで読むことを身につけさせ、視写では、正確に速く書く力の定着を図っている。回数を重ねることで、着実に速く書く力が向上している。特に視写させることにより、集中力が向上するようである。



③ 家庭学習との連携

2学期末に実施した「家庭における漢字・計算練習に関するアンケート」によると、計算練習については約84%、漢字については約89%が「宿題の有無に関わらず、もしくは宿題になっている場合は必ず練習する」と答えている。自由にドリルプリントを持ち帰って練習することを進めた学年では、著しく技能の向上が見られた例もある。ド

リルタイムと家庭における練習が結びつき、主体的な家庭学習の習慣が育ちつつある。

## 2 今後の課題

- ・ 学習状況調査の得点の低い領域を全県並の水準に引き上げるため、個のつまずきに応じたドリルプリントの作成と支援のあり方を細かく検討し、保護者の協力を得ながら不得意領域の克服に当たる。
- ・ なお一層主体的な学びの習慣を身に付けるための工夫が必要である。そのため、児童が自己評価しながら自主的に取り組めるドリルを作成して、意欲化を図ったり、保護者との十分な連携のもと、家庭学習の習慣化を図ることが大切であると考えている。
- ・ 保護者アンケート（平成15年度2学期末実施）によると約10%が、少人数指導には「あまりメリットがない」ととらえている。保護者の理解を深めるためには、児童の学習への意欲化を図ることが重要であるとする。そこで進級ドリルや個々の学力プロフィールに基づく課題克服支援プログラム（個の実態に応じたドリル、家庭学習等）の実践とともに、よく分かる授業の指導法の改善、教材・教具の工夫を重ねたい。

## IV 学力等把握のための学校としての取組

調査の目的 ① 児童の基礎的・基本的な内容の定着度をとらえる。

② 児童の興味、関心、意欲、態度の変容をとらえる。

③ 教員や保護者の意識の変容、生徒指導上の課題の変容をとらえる。

実施内容 ① 学習状況調査（学年初め）、CRTテスト（学年末）

時期 週2回のドリルタイム、まとめテスト、補充学習、授業中のドリル

② 家庭学習に関するアンケート（各学期中期）

学習の約束チェックの自己評価と担任の評価（毎月1週間）

③ 保護者の意識調査（各学期末）教員の意識調査（各学期）

## V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

### (1) 説明会の実績

地区協議会（6月・12月・2月）での研究経過・成果の報告及び協議

### (2) 研究会の開催予定

日時 平成16年11月10日（水）午後（5校時）

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 ■15年度からの新規校

【学校規模】 ■7～12学級

【指導体制】 ■少人数指導 ■T・Tによる指導

【研究教科】 ■国語 算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■有